

2) 行動様式質問紙(乳児用)の検討と標準値

前 川 喜 平 (慈恵医大小児科)
横 井 茂 夫 (")
副 田 敦 裕 (")
庄 司 順 一 (都立母子保健院)

研究目的及び方法

我々はCareyのInfant Temperament Questionnaire(以下ITQと略す)を参考として1977年乳児用行動様式質問紙を作成しそれ以来約1000名の乳児にこれを使用してきた。今回は前回に引き続き各カテゴリースコアの標準値を求めると、幾つかの条件による相違をみるため新生児のデータと質問結果をコンピューターに比較検討した。

対 象

国立大蔵病院, 都立荒川産院で出生し, 4-11か月の間に乳児用ITQを行なった740名のうち正常産正常児で健診時になら異常が認められない4か月児92名, 5-6か月児81名, 7-8か月児201名の計374名である。これらについて乳児健診時に質問紙を渡し, 母親に記入してもらい9カテゴリーに関して調査した。

結 果

各カテゴリーの標準値は表1に示すごとくである。次に活動水準, 周期性, 接近回避, 反応の強さ, きげん, 注意の範囲と持続性, 気の散りやすさ, 反応性の閾値などの各カテゴリーが4か月, 5-6か月, 7-8か月と月齢と共にどのように変化するかをみた。その結果活動水準は月齢と共に高くなる傾向が認められた。その他全体として4か月児の結果とそれ以後の結果に差が認められた。この理由は前回報告したように4か月児では回答不能項目が多かったことがあり比較することはできない。活動水準の変化については, 5-6か月と7-8か月では, 発達上大きな変化があることが影響している, と思われる。次に男女の差

をみると, 図2は, 4か月児群を除き, 5-6か月児で接近回避と順応性が男児では女児に比べて低く, 7-8か月児で反応性の閾値が男児では女児に比べて高い傾向が認められた。然し, 有意差はない。

母親による自由記述での児の性格と, カテゴリーとの関係を見ると(図3), 児の性格が明るい記述された児では, 短気と記述された児に比べ, より周期性で順応性で反応性の閾値が高い傾向があり又, 明るい児ではおとなしい児にくらべより活動的である傾向が認められた。表2は7か月児について, Careyの方法に従い子どものタイプについての分類をしたものである。カテゴリースコアそのものは, Careyと我々の資料との間に差異がみられたが各タイプとの割合にはほとんど差がみられなかった。

結 語

乳児用ITQを正常乳児に使用した。4か月児に関しては回答不能項目が多く, そのまま使用することは適切でないと思われた。我々の印象ではこの乳児用行動様式質問紙は, 6か月から8か月の乳児に使用するのが適当と思われる。4か月, 5-6か月, 7-8か月の各カテゴリーの得点を比較するとかなりの差がみられたがこの差は4か月児では回答不能項目が多く, 又, 乳児の行動自体が発達と共に変化していることによると思われる。今後すでに作成してある乳児用行動様式質問紙を使用して, 小児が発達と共に気質がどのようになるかを検討することと, この結果を乳幼児健診を通して, 小児の母子相互作用をふまえた健全育成に役立てる予定である。

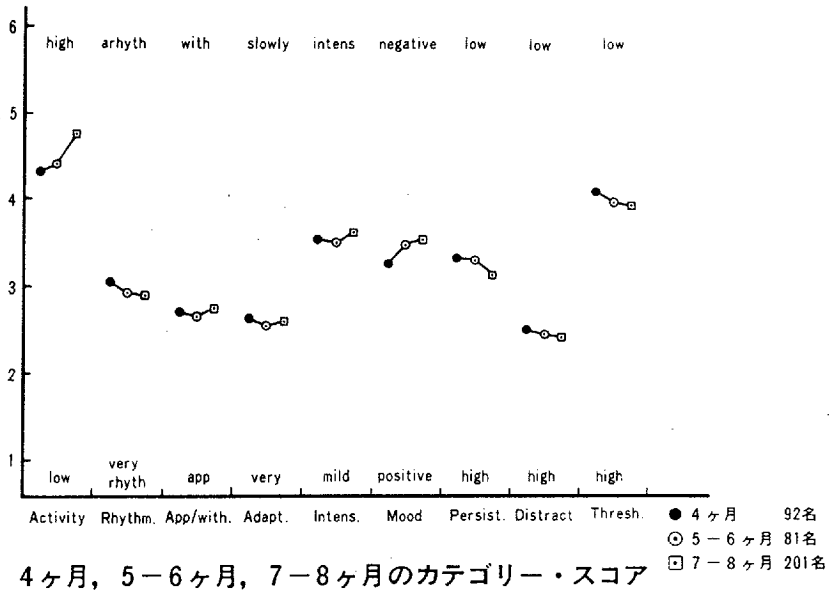


図 1

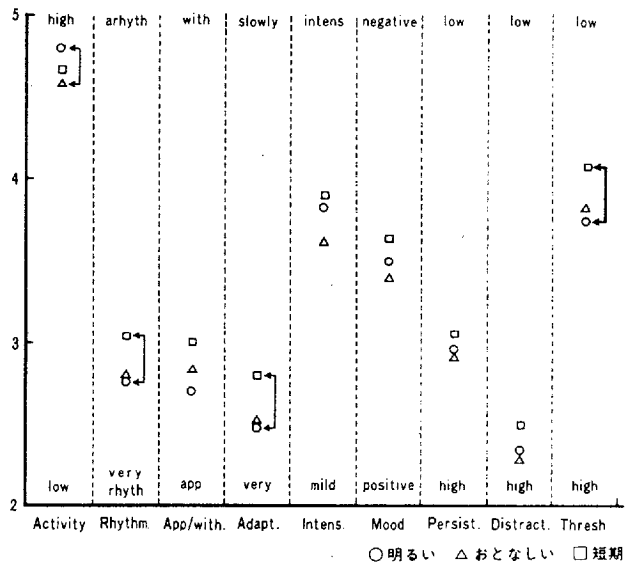
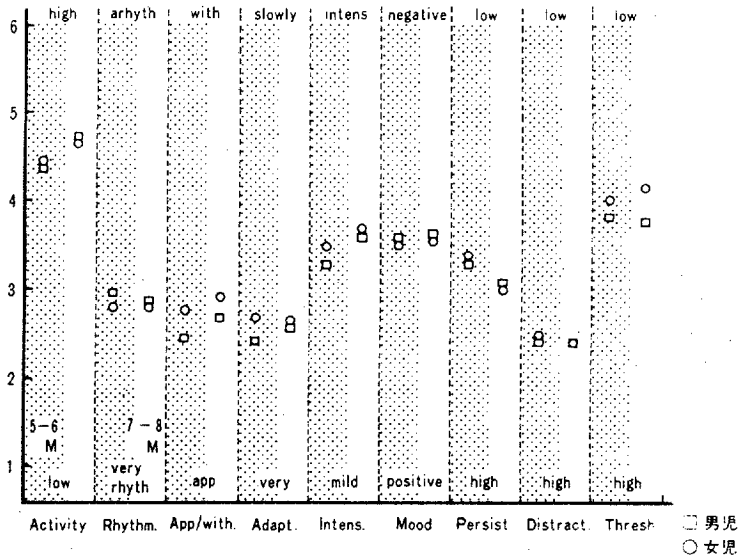


図 2



5-6ヶ月と7-8ヶ月の男・女児のカテゴリー・スコア

図3

表1

カテゴリー・スコア

	活動水準	周期性	接近回避	順応性	反応の強さ	さげん	注意の範囲と持続性	気の散りやすさ	反応性の閾値
平均値	4.59	2.89	2.81	2.67	3.72	3.51	3.14	2.51	3.86
標準偏差	0.55	0.58	0.73	0.60	0.63	0.59	0.75	0.60	0.63

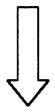
表2

気質のタイプの分類

Category	7ヶ月児(♂)	Carey's Norms(♂)
Difficult	10.3(7)	9.4(19)
Slow to warm up	2.9(3)	5.9(12)
Intermediate high	12.7(9)	11.3(23)
Intermediate low	32.9(24)	31.0(63)
Easy	41.2(28)	42.4(86)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的及び方法

我々はCareyのInfant Temperament Questionnaire(以下ITQと略す)を参考として、1977年乳児用行動様式質問紙を作成しそれ以来約1000名の乳児にこれを使用してきた。今回は前回に引き続き各カテゴリースコアの標準値を求めると、幾つかの条件による相違をみるため新生児のデータと質問結果をコンピューターにいれ比較検討した。